

第2回 あきる野市地域保健福祉計画策定・推進委員会 議 事 要 旨

1 開催日時

令和元年7月18日(木) 午後7時00分～午後8時45分

2 開催場所

市役所5階 505会議室

3 出欠席

出欠	氏名	所属
出席	鈴木 裕介	明星大学 人文学部福祉実践学科
出席	森川 秀臣	市民の代表
出席	鳥海 弘子	市民の代表
出席	◎ 下村 智	あきる野市医師会
出席	大塚 秀男	秋川歯科医師会
出席	○ 倉田 克治	あきる野市社会福祉協議会
欠席	溝口 正恵	あきる野市民生児童委員協議会
出席	伊東 満子	あきる野市健康づくり市民推進委員会
出席	伊藤 元聡	あきる野市民間保育園園長会
出席	河井 章子	あきる野市障がい者団体連絡協議会
出席	今 裕司	あきる野市介護事業者連絡協議会
出席	太田 勝久	あきる野市高齢者クラブ連合会
出席	永田 弘行	青梅公共職業安定所
欠席	小林 啓子	東京都西多摩保健所

◎:委員長 ○:副委員長

事務局：川久保健健康福祉部長、細谷生活福祉課長、田中生活福祉課庶務計画係長、
庶務計画係木崎、庶務計画係中山

コモン：相澤、尾崎

4 内容

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 報告事項

①アンケート調査の速報について

(4) 協議事項

①次期地域保健福祉計画の施策の方向性等と計画の体系図(案)について

②庁内策定推進プロジェクトチーム会議及び地域保健福祉計画策定・推進委員会開催
計画について

(5) その他

(6) 閉会

【資料】

- 資料 1 あきる野市地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査報告書（案）
- 資料 2-1 次期地域保健福祉計画策定に伴う調査
- 資料 2-2 計画策定ガイドライン（要約）
- 資料 2-3 次期地域保健福祉計画における【重点課題】の検討…（市が考える重点取組より）
- 資料 3 計画の体系図（案）
- 資料 4 令和元年庁内策定推進プロジェクトチーム会議及び地域保健福祉計画策定・推進委員会開催計画

5 議事録（発言の主な内容）

(1) 開会 生活福祉課長

(2) 挨拶 委員長

(3) 報告事項

① アンケート調査の速報について

委員長 それでは、次第の3報告事項(1)アンケート調査の速報についてです。事務局から説明をお願いします。

一 事務局 資料確認

事務局 5月30日から6月12日まで、アンケート調査を実施しました。対象者2,000人に郵送して、回収数が972、回収率が48.6%という結果でした。平成26年度に実施した前回調査では、対象者1,000人に郵送し、回収数が394、回収率が39.4%という結果でした。今回は対象者数も増やしましたが、回収率も約5割と前回より高くなり、市民の皆様にご協力いただき、本当にありがたいと思っています。それでは、アンケート調査の速報をコモン計画研究所の方から報告をお願いします。

コモン 資料1調査報告書(案)について説明をさせていただきます。第1部は調査概要、第2部は集計・分析結果となっています。4ページにクロス集計表のブロック別の内訳を、7～11ページは調査結果の要約とポイントを掲載しています。この要約とポイントをもとに報告いたします。まず、今回の調査では972票、48.6%の方から回収を得ています。7ページ1.回答者の基本属性について、性別は男性41.9%、女性50.0%、年齢は70歳以上の方が35.7%で最も高く、回答者の約7割が50歳以上となっています。家族構成は、二世世代家族が45.2%と最も高くなっていますが、一人暮らしと夫婦を合わせると43.1%となっています。

次に2. あきる野市での暮らしについて、居住年数は「30年以上」が57.7%、6割近くがかなり長い間、あきる野市に暮らしているという結果です。あきる野市の暮らしやすさは、「暮らしやすい」と回答している人が81.9%に上っています。「暮らしにくい」が17.3%で、その理由には「交通の便に対する不満」という理由が見られました。ご近所との関係は、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」が48.1%、と約5割を占めていますが、前回に比べてつながりが希薄になっている傾向があります。その理由として、「ふだん付き合う機会がないから」「仕事や家事・育児などで忙しい（時間がないから）」といった理由が多く挙げられています。

3. 地域における交流、活動について、地域への行事や活動への参加経験は、『参加している』46.0%、『参加していない』52.1%で、近所づき合いと同様に、前回に比べて若干参加の度合いは減っている傾向にあります。地域の人々のお互いの支え合いを進めるために大切なことは、「誰もが気軽に触れ合える場・居場所をつくる」40.0%が最も高い割合になっています。地域の人に手助けできることとしては、「災害時の安否確認の声かけ」「日常の安否確認の声かけ」などが5割を超えています。

次に4. ボランティア活動について、ボランティア活動への参加経験は、「参加したことがある」が28.5%、「参加したことがない」がそれを大きく上回る70.9%という結果で、これも前回に比べると参加の度合いが微減しています。その理由は、「忙しい（時間がない）から」が高い割合になっています。ただし、今後の活動意向は34.6%、約3人に1人が「取り組みたい」と回答しています。そのために必要なこととして、「情報提供を充実させる」が最も高くなっています。

5. 災害時の対応について、約9割の方たちが何とか自分一人で『避難できる』と回答しています。一方、一人では避難「できないし、支援してくれる人（家族や知人等）はいない」方が2.2%います。家族構成別で見ると、一人暮らしで『避難できる』人の割合がほかより低くなっています。

6. 市民が感じている地域の課題は今回新たに設置した設問で、自由に記載していただき、523件の意見が集まりました。交通手段の確保、利便性向上の必要性、空き家等、地域環境の整備、自治会、町内会のあり方などが上位になっています。自由記載につきましては、72ページ目から、幾つか意見を抜粋して、基本的には記載された原文のまま、文末に性別と年齢の属性を付けて記載しています。

7. 保健福祉施策について、地域の団体・機関の認知度は「民生委員・児童委員」が約7割、「あきる野市社会福祉協議会」が約5割となっています。希望する情報提供は、高齢者が多いということもあり「市の広報誌やパンフレット」の要望が高く、若い世代は「インターネット（市のホームページ以外）」「メール、SNSによる配信」の希望が高く見られました。次に、あきる野市の施策について、取り組み別にすすんでいる・充実していると感じる割合、『そう思う』割合が最も高いのは①の健康づくり、介護予防、次いで④の防災・防犯の取り組み、⑦地域における見守りの取り組みなどとなっています。一方、『そう思わない』割合が高いのは、⑤の道路や建物のバリアフリー化など誰もが暮らしやすいまちづくり、⑧判断能力に不安がある者

等への権利擁護、虐待防止の取り組み、⑥住民同士で支えあう仕組みづくりなどとなっています。次に、今後充実すべき保健福祉施策として割合が高いのは、「地域における医療体制、医療と介護の連携」「高齢者への支援、サービス」「防災・防犯の取り組み」「健康づくり・介護予防」などとなりました。

最後に、8. 市民の意見ということで自由記載になります。合計 230 件のご意見をいただき、多い順に、「市への意見・要望・感謝など」「市民活動・ボランティア活動について」「情報発信について」などになっています。98 ページ以降に、幾つか意見を抜粋して、基本的には記載された原文のまま、文末に性別と年齢の属性を付けて記載しています。

今後は計画書のそれぞれテーマごとに、さらに分析をした内容を計画書に掲載していきたいと思っています。また、ご意見をいただきましたら、追加の分析などはしていきます。

- 事務局 ありがとうございます。アンケート調査についての説明は以上です。
- 委員長 ご質問、ご意見はありますか。
- 副委員長 13 ページに回答者の年齢の分布がありますが、高齢者の割合が高く、高齢者の意見が強い結果になっているかと思えます。調査票を出したときの年齢分布はどのようなになっているのか教えてください。
- 事務局 対象者は人口の構成比に合わせて抽出しているので、高齢者の方に多く配付しています。具体的には、20代が11%、30代が12%、40代が19%、50代が16%、60代が15%、70代以上が26%となっています。どうしても高齢者のご意見が強く出ている結果になっていると思います。以上です。
- 委員 私の家にもアンケート調査が届き、分厚い調査票を全部読んで回答する人は少ないのではと思いますが、回答率が50%近くあり、あきる野市民の福祉施策に対する意識の高さを改めて感じ、とてもうれしく思いました。この調査結果をどうにかたちで行政が施策に移し、市民に周知していくのか聞かせてください。
- 事務局 市としても回収率の高さに意識の高さを感じています。自由記載の欄も、本当に細かく熱心に書いていただき、大変感謝しています。今後はアンケート調査の報告書をまとめ、色々なかたちで公表をしていきます。また、プロジェクトチームで調査から浮き上がってきた課題やニーズについて、施策の方向性と乖離していないか、また、新たなニーズはあるかという点からも検討しています。
- 委員 10 ページの7. 保健福祉施策について、『そう思う』割合と『そう思わない』割合を総体的に高いものから順から並べると、ある部分からそれぞれ反対の割合が高いものが列挙されてきます。過半のものをどうとるかで見方が変わると感じます。今回の表記の仕方、狙いがありましたら、教えていただきたいと思っています。
- コモン 今回は、多いものから、少ないものからと、順に列挙してみました。列挙の仕方によって見方も変わってくるというご意見を受けて、今後、市と相談をしながら対応していきたいと思っています。

- 委員 例えば、⑬差別・偏見のないまちづくり、⑩子ども・子育て世帯への支援、⑪障害者（児）への支援は、実際には『そう思わない』比率の方が高いのに、『そう思う』割合が高いものに列挙すると、充実していると感じている人が多いように誤解されると思います。そういった視点を入れていただければと思います。もう1点、8ページの3. 地域における交流、活動について、地域の人々のお互いの支え合いを進めるために大切なことで「誰もが気軽に触れあえる場・居場所をつくる」が最も高い結果となっています。あきる野市では「あきる野市地域ぐるみの支え合い推進協議体」が立ち上げられて、その中で高齢者がいきいきと暮らし続けるために必要なものは何だろうと検討し、4つほどの柱が挙がってきています。その中で一番大きなテーマとなっていることが「居場所づくり」です。こちらは高齢者福祉や介護予防事業として取り上げられていますが、高齢者に限らず、実際には子育て世代の方、不登校の方、障がいをお持ちの方、あるいはそのご家族にとっても居場所をつくるということに大きな効果を感じ、期待をされていると思うので、この高齢分野の取組みをぜひ参考にさせていただきたいと、このデータを見て感じました。
- 委員 私は広報を必ず見ます。28年間、高齢者の施設でコーラスの指導をしてきましたが、これから、趣味の活動や地域の防災活動、見守り活動、地域の環境を整える活動など、自分に合った活動を広報から見つけて参画していきたいと思います。市民が知りたいことを見極めて、もっと多くの情報を広報で周知していただきたいと思います。
- 事務局 ご意見ありがとうございます。アンケート結果からも情報の伝達が必要だという課題が浮き上がってきました。ボランティアに関する活動のPR、広報活動については、市の広報のほかに社会福祉協議会の「あいネット」、ボランティア通信、高齢者クラブやシルバー人材センターの方でも広報紙を出していただいています。これらの情報が皆さんに行き渡るように工夫していく必要があると考えています。
- 委員長 ブロック別の回答を見ると、第6ブロックは高齢者が多く、第1ブロックは40代ぐらいの人が多く分布のようですが、アンケートの配付の際に、そういう比率で配付したのでしょうか。
- コモン アンケートの対象者は、現在の人口の分布に合わせて抽出しているので、第6ブロックに高齢者の方が多いと、抽出も高齢者の方が多くなります。
- 委員長 地域の年齢分布と同じ比率でアンケートを配布しているのであれば、ブロックごとの意見をまとめるのは難しいと思うのですが、どのように分析をするのですか。
- コモン 対象者の抽出は市の方で行っているのですが、基本的にアンケートを実施する場合、現時点の人口の構成、年齢や性別、地域などを圧縮したかたち、同じ比率で抽出します。今回の調査も2,000名をその方法で抽出しています。人口そのものに年齢の偏りがありますし、ブロックにも年齢の偏りがあるので、各質問で性別、年齢別、地域別などの視点で傾向をみるために、クロス集計を掲載しています。今後はそれ1つ1つを丁寧に読んでいく必要があります。
- 副委員長 第1ブロック、第2ブロックという表記より、地区の名前のほうが、市民もわかりやすいのではないのでしょうか。検討をお願いします。

- 委員長 施策を進めていくとき、どの辺りをターゲットにしていくかを決める必要があると思うのですが、委員の皆さんはどう考えているか、順番にご意見をお願いいたします。
- 委員長 私は、自分の専門領域である社会福祉学の視点から、アンケートに反映されていないところをどのように拾っていくかを考えてしまいます。やはり生活困窮者を外しては考えられないというのが私の意見です。
- 委員 私は一般市民ですが、人口の多くを占めている高齢者に視点を当てていくべきだと思います。
- 委員 私は、子どもが大人になった10年後、20年後のあきる野市を考えると、子どもの分野からスタートすることが、将来の高齢者のことにつながっていくと考えます。
- 委員 数年前に他市で、母一人、子一人で障がいを持ったお子さんを育てていて、お風呂でお母様が病死、子どもさんも水死したという事件がありました。おむつの業者が定期的に入っていましたが、結局、1~2週間後に見つかったという悲しい事件です。地域の見守りを市役所とうまく連携してできたらと思い、参加させていただいています。
- 委員 高齢者クラブでは、健康寿命を伸ばす取組みをしています。高齢者が増加していく中、自分自身で努力しようという意識改革を始めています。クラブの会員は元気な高齢者ですが、それでも誰かのところに行ってみ守り活動をするのはなかなか難しいのです。調査結果を素直に見ることも必要だと考えます。
- 委員 アンケートの調査結果から、あきる野市に30年以上住んでいる方が6割近くいるということは、住みやすいと感じている割合も高いと言えらると思います。ハローワークという立場で西多摩地域を管轄していますが、西多摩地域は全ての自治体で人口減少という状況になっています。人口を減らさないためには、「住みやすいと感じていない人」たちの意見を反映させていくべきと考えます。
- 委員 私は世代も障がいの有無もトータルでみて、共生社会をどうつくるかが一番のポイントになると思います。子どもはもちろん大事で、そこには子育て世代がいて、高齢者も家族や周りの人も含めて考える必要があります。また、数は少ないかもしれませんが、様々な困難を抱えている人もいます。「誰もが」を忘れずに、どのように入れていくかが一番のポイントだと考えています。
- 委員 私は保育の分野からですが、10月に幼児教育無償化が控えているにもかかわらず、アンケートの回答率が少ない20代、30代で子育て支援のサービスで、充実していると感じている人が3割しかいないことは、アピールの仕方や使い方が不十分ではないかと感じています。
- 委員 私は、赤ちゃんからお年寄りまで、健康づくりを地域に浸透させるために長年活動をしてきました。今、自分が高齢になり、高齢者の健康づくりについて、改めて考えさせられています。
- 副委員長 私は、計画に健康寿命をどんどん挙げていった方がよいと思います。健康寿命の延伸の取組みをターゲットにしていくと、幅が広がると思います。
- 委員 アンケート調査結果から30代、40代の方が元気で頑張っていたかかないと、日本中がだめになってしまうと感じました。30代、40代の方の意見を聞くことが重要だと思います。また、私もブロックよりも地名の方がわかりやすいと思いました。

委員長 色々な団体の方が一堂に集まる機会ですので、テーマに沿って、一人ずつご意見をいただきました。ありがとうございました。皆さんのご意見は、自分のポジショニングからの考え方、総合的な考え方、まちづくりをどうするかという考え方の3点にまとめられると思います。この3つの視点をもって策定・推進委員会を運営していきたいと思います。

(4) 協議事項

① 次期地域保健福祉計画の施策の方向性等と計画の体系図（案）について

委員長 それでは、次期地域保健福祉計画の施策の方向性等と計画の体系図（案）についてです。事務局から説明をお願いします。

事務局 次期地域保健福祉計画における施策の方向性等について、庁内の各課及びプロジェクトチーム会議で検討を行い、今後「S：特に積極的に取り組む」施策として、健康寿命を延ばす取組みの推進など、9つが次期計画の重点施策として浮かび上がり、新たに今後取組まなければならない項目として、就労に困難を抱える者への横断的な支援、生活困窮者など分野横断的に対応できる体制、再犯防止の取組みや自殺対策も追加しなければならないこと浮かび上がりました。健康づくり・生きがいがづくりの充実、地域力の強化、相談・支援体制の充実、人材育成の推進の4つを加えて次期計画における重点課題として絞り込みました。そして、資料3の計画の体系図案を作成しました。重点施策について、今回、変更・追加等をした赤字のところを説明します。まず1つ目、「健康づくり・生きがいがづくりの充実」は、高齢化が進む中、健康寿命を延ばす取組みを進めていきたいと考えています。2つ目、「地域力の強化」は、この5年間で市民の皆様の協力で地域活動や連携体制のベースができてきました。さらに地域力を強化するため、地域の皆様が主体となる活動をさらに推進していきたいと考えています。3つ目、「包括的な相談支援体制の充実」は、個別の課題に対応できるよう専門性を高めることと、地域の多様で複雑化・複合化している課題に対応できる相談支援体制を包括的に充実していく必要があると考えています。4つ目「人材育成の推進」は、地域保健福祉の意識を向上させる必要があり、引き続き重点施策として進めていきたいと考えています。

委員長 ご質問、ご意見はありますか。

委員 施策の方向性に、エッセンスとして入れていただきたいとされていることがあります。1つ目は、健康づくり・生きがいがづくりの充実に、①健康寿命を延ばす取組の推進（健康づくり・介護予防）とありますが、どうしても高齢者の介護予防などにスポットが当たり過ぎてしまいます。生活習慣病などを考えると、幼児、小学生、若い世代から健康への意識醸成や教育が大切なので、そういった視点を計画に入れていただきたいと思います。2つ目は、重点施策として包括的な相談支援体制の充実とありますが、現在、あきる野市の地域包括支援センター、子ども家庭支援センター、障がい者相談支援センターは物理的にかなり離れています。他区ではワンストップという目標のもとに、各分野の相談支援センターを同じ建物内に設置しているところもあります。例えば、高齢者を支えるためには、同居している家族や家庭環境からアプローチが必要な場合があり、子ども家庭支援センターや就労支援、生

活困窮者のところと協働して家族も支援する必要がある例が確実に増えています。高齢の分野だけで頑張ればよいという問題ではなくなってきています。どのように包括的な仕組みつくるか、本気で取り組んでいただきたいと考えています。

- 委員長
事務局 プロジェクトチームの担当課で横断的に検討していくのですか。
この計画を策定・推進するためにプロジェクトチームを設置していますが、ほかにも福祉サービスの連携推進会議を健康福祉部と子ども家庭部で設置しています。さらにも横断的な課題解決のための方法を検討していく必要があると考えています。
- 委員長 防災について、実際に防災マップが出来上がり、そのマップに基づいて誰がどう動くかという訓練などを、実際にやったことはあるのでしょうか。
- 副委員長 地域で防災訓練を実施しているところはありますが、私の町内は全体で600名、そのうち町内会の会員が400名、そのうち防災訓練に集まるのは50名～60名です。地域の委員会や各町内会に防災力の強化を働きかけていますが、現状はなかなか進んでいません。
- 委員長 私の阪神・淡路大震災の経験から、亡くなった人たちの原因は、実際に訓練の経験がないことが大きいと思います。言葉だけで集まる場所がわかっているだけでもだめで、やはり訓練をするという意識づけが大事だと思います。
- 委員 防災について、全員にアウトリーチしたという地域があることを聞いています。多分、そこまでやらないと、防災の意識は高まっていかないと思います。また、計画は全体的に素晴らしいですが、どのくらい実行することができるのか、形骸化しないかという心配があります。
- 副委員長 町内会、自治会に入っていないと防災訓練は実行性が低くなります。町内会、自治会の加入率を50%を切っているのです、加入率も上げていく必要もあります。向こう3軒両隣やとんとんとんからりんと隣組という考え方がよいと思うのですが、いかがでしょうか。
- 事務局 いただいたご意見はプロジェクトチームに戻して、実際にどういう施策・事業で、どのように実行するかを考えていきたいと思っています。この5年、10年で地域の方々の防災への意識は確実に上がってきているので、防災に絡めて地域力を高めることがキーワードと考えます。どんな工夫をしたらもっと訓練に参加していただけるのか、さらにご意見やアイデアをお願いします。
- 委員 防災訓練は地域によって違うと思いますが、私の地域は年に1回、町内会が主体となって、安否確認をしたり、連絡網を確認したり、避難場所に集合したり、訓練を実施しています。
- 委員 以前、市から要支援者へのアンケートを実施されたと思います。私も記入して提出したのですが、それ以来どこからも何も連絡がありません。どのように活用されているのでしょうか。
- 事務局 不確かです。以前、防災担当で要援護者の台帳を作成して、避難させる人を決めることに取り組んでいましたが、やはり平日の昼間は人がいないので、特定して人を決めることが難しく、仕組みとして回していく難しさに突き当たりました。現在は、避難行動要支援者名簿の作成に切りかえて、取り組みを検討し直しているところだと思います。

- 委員長　　そういう弱者のリストが作成されていると、訓練でも具体的にどうやって助けるかという話になります。まずは健康な人が自分で考えて避難できるよう、実際に訓練に参加してほしいです。やってみることがアピールにもなり、教訓も生まれてくると思います。そういう視点で計画づくりをしていただければと思います。
- 委員　　計画の実行性を考えると、施策に計画の推進体制を追加することを、検討する必要があると考えます。資料2-2 計画策定ガイドライン（要約）について、「既存」も「新たな」も両方ゼロのところがあり、「官民協働の促進や」「全庁的な体制整備」という文言が入っています。私たちが事業者や専門職としてかかわっていくと同時に、行政がどのようなかわり方をしていくかをぜひ検討していただきたいと思います。実は厚労省の生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加のポンチ絵で、行政はバックアップになっています。地域ぐるみで誰もがともに支え合うという言葉が出ていながら、なぜか行政はバックアップになっているのです。協働という言葉は行政もともに取組むという考え方だと思うので、行政としての主体的な取組みも計画に盛り込んでいただきたいと考えます。
- 事務局　　決して皆様にだけと考えるわけではありませんが、皆様の活躍をまだまだ期待できることも事実で、その仕組みづくりや体制づくりに行政がリーダーシップをとっていく、バックアップしていくなど、色々な視点で事業を考えて素案の中に出して、それを見ていただいて、またご意見をいただければと思います。
- 委員　　行政のバックアップというのは、交通費などの予算的な部分のバックアップもあると思います。また、地域イキイキ元気づくり事業については、専門職として保健師さんが必ず入って確認していただくことで、49か所が51か所になったそうです。個人的には色々なことをされていると思いますので、ますます頑張ってくださいです。
- 委員　　町内会は役員のなり手がなくて厳しい現状があります。そこに、防災、防犯、健康づくりを市から投げ込まれるわけですから、このままでは町内会がどんどん減っていくと不安を感じています。行政がどこまで食い込んでいけるのか、どういうやり方があるのか、そこまで考えた計画でないと、絵に描いた餅になってしまうと思います。
- 委員　　私の住んでいる地区には、町内会はありません。あきる野市にはどれくらい町内会はあるのですか。
- 副委員長　　82ぐらいあります。
- 委員　　どのようにつくったらよいかわからないので、行政が一足踏み込んでいただいて、まず町内会づくりが必要と思います。
- 副委員長　　地域防災課にお願いすると応援はしてくれますが、地域の人がのってこないとなかなか難しいところがあります。また、新しい団地も新しく町内会をつくることは大変です。
- 委員長　　市の方でもぜひ協力をお願いします。

② 庁内策定推進プロジェクトチーム会議及び地域保健福祉計画策定・推進委員会開催計画について

- 委員長　　庁内策定推進プロジェクトチーム会議及び地域保健福祉計画策定・推進委員会開催計画についてです。事務局から説明をお願いします。

事務局 資料4が前回よりも細かいスケジュールになります。本日のご意見を8月上旬の第3回プロジェクトチーム会議に伝え、計画の素案を考えていきます。その後、9月に第3回の策定・推進委員会を開催し、計画の素案を皆様に協議していただき、第4回の策定・推進委員会では、ほぼ素案を固めることになります。その後、議会に報告、年明けにはパブリックコメントの実施、2月中旬には最終案の提示となります。

委員長 資料は、会議のどれぐらい前にいただけますか。

事務局 1週間前には送付させていただきます。

委員長 1週間前では、読み込むことができないので、2週間ぐらい前に送付をお願いしたいと思います。

委員 送付を早めると差しかえが多くなる心配がありますが、可能な範囲でお願いします。

事務局 できるだけ早めにお送りさせていただきますので、よろしくをお願いします。

(5) その他

委員長 事務局からその他をお願いします。

— 事務連絡（次回の開催予定、等）

委員長 それでは、議事を終了させていただきます。司会をお返しします。

(6) 閉会

生活福祉課長 皆様、長時間にわたり活発かつ熱いご意見をいただき、ありがとうございました。また、委員長、スムーズな議事進行をありがとうございました。最後に、健康福祉部長から閉会のご挨拶をさせていただきます。

健康福祉部長 委員の皆様、大変ご苦勞さまでした。委員の皆様から様々な視点でご意見をいただきました。ご意見を踏まえて、プロジェクトチームの方で素案の検討を進めてまいります。それでは以上をもちまして、第2回あきる野市地域保健福祉計画策定・推進委員会を閉会します。